

議会



株式会社アドバンスト・メディア
執行役員 VoXT 事業部長

志村 亮一

はじめに

地方議会は、地域住民の声を政策に反映し、持続可能なまちづくりを推進する重要な役割を担っています。議会活動の現場では、議事録作成や情報共有、住民とのコミュニケーションなど、多くの業務が発生しております。

特に地方議会では、限られた人員で多様な業務を担う中、議事録作成の負担が大きな課題となっております。

こうした課題に対し、アドバンスト・メディアでは、AI音声認識「AmiVoice（アミボイス）」を活用した議会向けサービス「Scribe Assist（スクライプアシスト）」「ProVoXT（プロボクスト）」を開発。議会の会議音声で自動で文字化することで、議事録作成の効率化と議事録の質の向上を実現しています。加えて、近年急速に進化した生成AI技術の活用により、議会業務のさらなる効率化が可能となりました。

特に、議会の一般質問の議事録から、議員ごとの質問の趣旨ごとに一問一答形式で要約を自動生成する「議会だより作成支援サービス」は、議会DXの新たな柱として注目されています。

本稿では、こうした音声認識と生成AIを活用した議会DXの取り組み事例として、茨城県取手市議会での導入事例を中心に紹介します。

■導入事例：議会DXの推進

茨城県取手市議会では、本会議や委員会における会議音声を自動で文字化し、必要な修正作業を加えることで、初校版の議事録を当日中に作成することが可能となっています。また、「Scribe Assist」には、音声認識結果をZoomの字幕として出力する機能があり、これを活用することで、本会議の内容をYouTubeで配信する際に、取手市議会専用で最適化された音声認識エンジンを用いて、高精度な字幕表示を実現することで聴覚に課題を抱える方や、

音声認識と生成AIで実現する、地方議会DXの最前線

議会内容を視覚的に把握したい住民の皆様に対して、より分かりやすい情報提供を実現しています。

■議会DXのさらなる展開：議会だより作成支援サービス

近年、生成AI技術の進化により、行政・自治体業務の効率化が急速に進んでいます。従来は人手に頼っていた要約・分類・編集作業も、AIによって迅速かつ高精度に処理できるようになりました。

この技術革新は、地方議会における情報公開や住民とのコミュニケーションにも大きな変化をもたらしています。その代表例が、アドバンスト・メディアが提供する「議会だより作成支援サービス」です。

本サービスは、AI音声認識「Ami

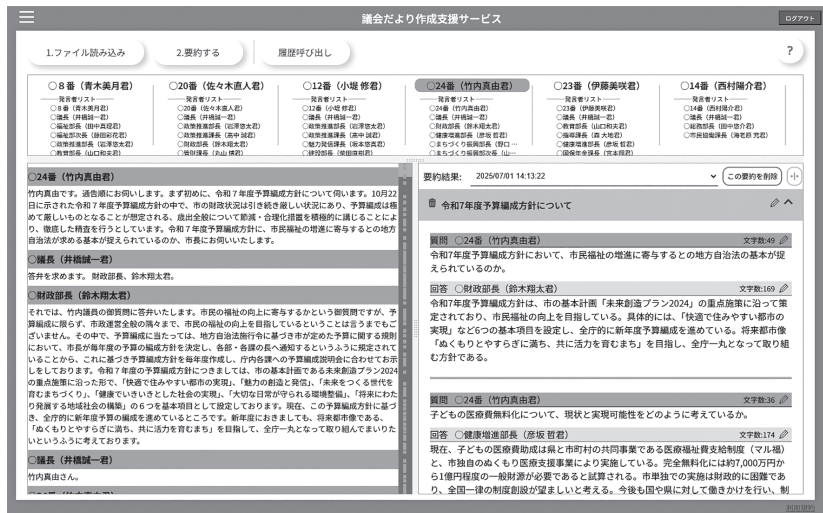
Voice」を用いて作成された議事録をもとに、生成AIを活用して議員ごとの質問の趣旨ごとに一問一答形式で要約を自動生成します。議会だよりは、議会の活動や審議内容を住民に分かりやすく伝える広報紙であり、住民参加型自治を支える重要な情報源です。しかし、議事録から発言を精査し、要約文を作成する作業には多くの時間と労力がかかり、議員や事務局職員にとって大きな負担となっています。

本サービスでは、議事録をアップロードするだけで、発言内容を自動で振り分け、質問と回答を一問一答形式で要約。茨城県取手市議会では、この機能を活用し、一般質問の内容を「ウェブ版ひびき」として市の公式サイトに掲載しています。

住民は、議員の質問と行政の回答をわかりやすい形式でいつでも閲覧できるようになり、議会の透明性向上と市民参加の促進に大きく貢献しています。

■おわりに

音声認識技術と生成AIの活用は、地方議会の業務効率化だけでなく、住民との情報共有や参加促進にも大きな可能性をもたらしています。議事録作成の省力



取手市で活用されている「議会だより作成支援サービス」画像イメージ

化、字幕表示による情報のアクセシビリティ向上、そして議会だよりの自動要約による広報業務の革新は、議会DXの実現に向けた重要なステップです。

アドバンスト・メディアでは、こうした技術を通じて、自治体・議会の皆様とともに、地域課題の解決と新しい地方自治のモデル構築に挑戦し続けます。今後も現場の声を大切にしながら、技術とサービスの進化を通じて、地方議会の未来を支えてまいります。

※ウェブ版「ひびき」は以下のQRコードからご覧いただけます

